

環境活動レポート

2023

<R5年5月1日～R6年4月末日>



栗山工業株式会社

発行日付：R6年7月1日



目 次

1.	環境方針	1
2.	2-1 事業活動の概要	2～3
	2-2 組織図	4
3.	環境目標及び実績	5～6
4.	環境活動の取組内容と結果評価	
	①二酸化炭素の排出削減	7
	②軽油使用量の削減	8
	③ガソリン使用量の削減	9
	④電気使用量の削減	10
	⑤公共工事における建設廃棄物再生資源促進率の維持	11
	⑥材料指定外工事における再生資源利用率の向上	12
	⑦一般廃棄物の削減	13
	⑧水使用量の削減	14
	⑨ICT工事に関わる取組	15
5.	環境関連法令等の遵守状況の確認及び評価の結果	16
6.	地域貢献活動	17
7.	代表者による全体の評価と見直しの結果	18

1. 環境方針



環 境 方 針

環 境 理 念

弊社基本理念のひとつである“人間・社会・環境すべてのつながりを大事にし、自ら考え行動します”
この言葉のもと、自らが責任を持ち、社員ひとりひとりが地域環境と直結していることを自覚し、
環境負荷低減に配慮した経営活動を目指します。

建設業である弊社は、自然環境に対し係わり合いを持つ機会が多いことから、率先して持続可能な環境づくりに取り組むことを宣言します。

また環境関連法規制等を遵守することをあわせて誓約します。

行 動 方 針

1. 自社における二酸化炭素排出削減の推進

事業活動に於ける電力、ガソリン、軽油の削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。

2. 廃棄物排出量削減の推進

現場及び事業所から出る廃棄物を最小限にすることを推進します。

3. 総排水量削減の推進

事業所内で使用する水の削減により、総排水量の削減を推進します。

4. 工場のICT化の推進

効率化に努めることにより、環境負荷を低減します。

令和4年7月1日

栗山工業株式会社

代表取締役 栗山 秀樹

2-1. 事業活動の概要

事業者名

・栗山工業株式会社

代表取締役

・栗山 秀樹

所在地

・茨城県稲敷郡美浦村布佐1049（本社）
 ・茨城県稲敷郡美浦村布佐1057（事務所）
 ・茨城県稲敷郡美浦村布佐1057（資機材置場）
 ・TEL：029-885-0477 FAX：029-885-0835

環境管理責任者

・栗山 美香

事務局

・環境管理責任者・各部署責任者

連絡先

・029-885-0477 【E-mail】 kuri@kuriyamakougyou.co.jp

事業活動の内容

- ・土木構造物の施工
- ・建築物の施工

対象範囲

- ・全組織・全活動

事業の規模

- ・資本金 2,000万円
- ・完工高 43,039万円
- ・従業員人数 15名
- ・設立 昭和59年9月14日
- ・事務所床面積 140㎡
- ・資機材置場面積 308㎡
- ・敷地面積 2,223㎡
- ・置場状況
- ・ 建屋、排水設備はなし

許可の種類

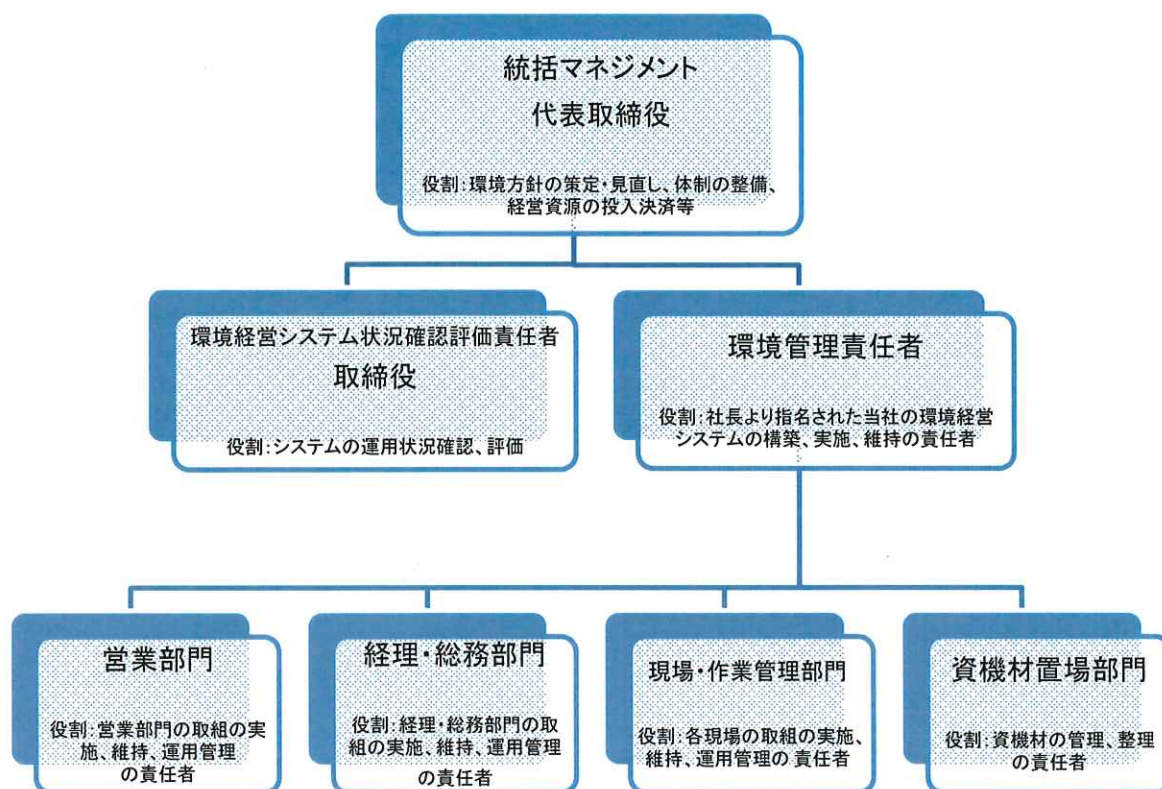
- 茨城県知事（特-02）第016762号
- 土木工事業
- とび・土工工事業
- 石工事業
- 鋼構造物工事業
- 舗装工事業
- 浚渫工事業
- 塗装工事業
- 水道施設工事業
- 解体工事業

主な資格及び人数

- 1級土木施工管理技士 6名
- 2級舗装施工管理技士 2名
- 2級建築施工管理技士 2名
- 1級とび技能士 1名
- 2級建設業経理士 2名



組 織 図



3. 環境目標とその実績

(1) 運用期間

<1>運用期間はR5年5月1日～R6年4月30日

(2) 目標達成状況

<1>当社としては、次の3ヶ年目標を掲げて環境活動に取り組んでいく。

特記事項として、当社において化学物質の取扱いはなし。

取組項目	H28年度 (対比年度実績)	R5年度	R6年度	R7年度
CO2排出量削減 (①+②+③) 事務所+現場 (kg-CO ₂)	173,823	3.5%削減 167,739	4%削減 166,870	4.5%削減 166,001
①軽油使用量削減 現場 (ℓ)	51,224	3.5%削減 49,431	4%削減 49,175	4.5%削減 48,919
②ガソリン使用量削減 事務所+現場 (ℓ)	13,578	3.5%削減 13,103	4%削減 13,035	4.5%削減 12,967
③電力使用量削減 事務所+現場 (kWh)	15,740	3.5%削減 15,189	4%削減 15,110	4.5%削減 15,032
公共工事における建設業廃棄物再生資源利用促進率の維持 現場 (%)	100%維持	R5年度目標 100%維持	R6年度目標 100%維持	R7年度目標 100%維持
材料指定外工事における再生資源利用率の維持 現場 (%)	H28年度実績 58%	R5年度目標 60%超維持	R6年度目標 60%超維持	R7年度目標 60%超維持
一般廃棄物の削減 事務所+現場 (ℓ)	R4年度実績 4500ℓ維持 監視計測とする	令和5年度目標 4500ℓ維持	R6年度目標 4500ℓ維持	R7年度目標 4500ℓ維持
水使用量の削減 事務所 (m ³)	H28年度実績 51.9	H28年度実績より 3.5%削減 50.1	H28年度実績より 4%削減 49.8	H28年度実績より 4.5%削減 49.6
ICT工事に関わる取組 (件)	-	1件以上	1件以上	1件以上
近隣清掃 (月1回/年12回)	月1回/年12回	月1回/年12回	月1回/年12回	月1回/年12回



(3) 結果（実績）については次のとおりです。

取組項目	H28年度	R5年度		目標達成状況
	(対比年度実績)	(目 標)	(実績)	
CO2排出量 (kg-CO ₂) 排出係数0.500に変更し固定	173,823	3.5%削減 167,739	達成率112.6% 149,010	○
①軽油使用量 (ℓ)	51,224	3.5%削減 49,431	達成率117% 42,252	○
②ガソリン使用量 (ℓ)	13,578	3.5%削減 13,103	達成率93.5% 14,011	×
③電力使用量 (kWh)	15,740	3.5%削減 15,189	達成率122.4% 12,408	○
電力売電量 (kWh)	-	-	11,636	-
差引使用量 (kWh)(注1)	-	-	772	-
公共工事における 建設業廃棄物再生資源利用促進率 (%)	100%維持	100%維持	COガラ+ASガラ 1,599.38 t 100%維持	○
材料指定外工事における 再生資源利用率の維持 (%)	58%	60%維持	再生材 395.15 t ヴァージン+再生材 136.13 t+395.15 97%維持	○
一般廃棄物 (ℓ)(注2)	4,635	3.5%削減 4,500	達成率97% 4,635	×
水使用量 (m ³)	51.9	3.5%削減 50.1	達成率180% 27.8	○
ICT工事に関わる取組 (件)	-	1 件以上	1 1 件	○
近隣清掃 (月1回/年12回)	月1回/年12回	月1回/年12回	月1回/年12回	○

(注1) ソーラーシステムによる発電からの差引量

(注2) 一般廃棄物は45ℓ/袋で計測した。

表の数値は年間の集計値である。

*購入電力のCO₂排出係数 (令和3年度実績令和5年1月24日公表温室効果ガス排出量算定係数)

電力会社：東京電力 実績値0.45 kg-CO₂/kWh

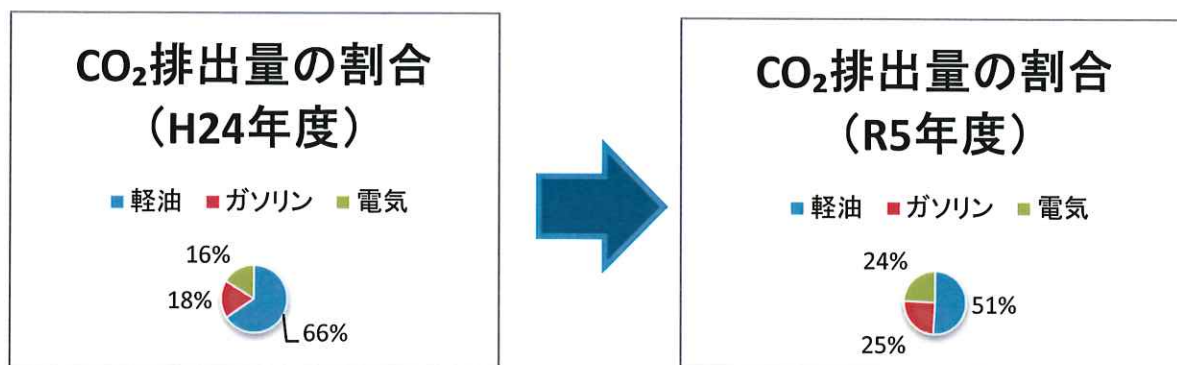
*化学物質の取扱いはなし。



4. 環境活動の取組内容と結果評価ならびに次年度の経営計画

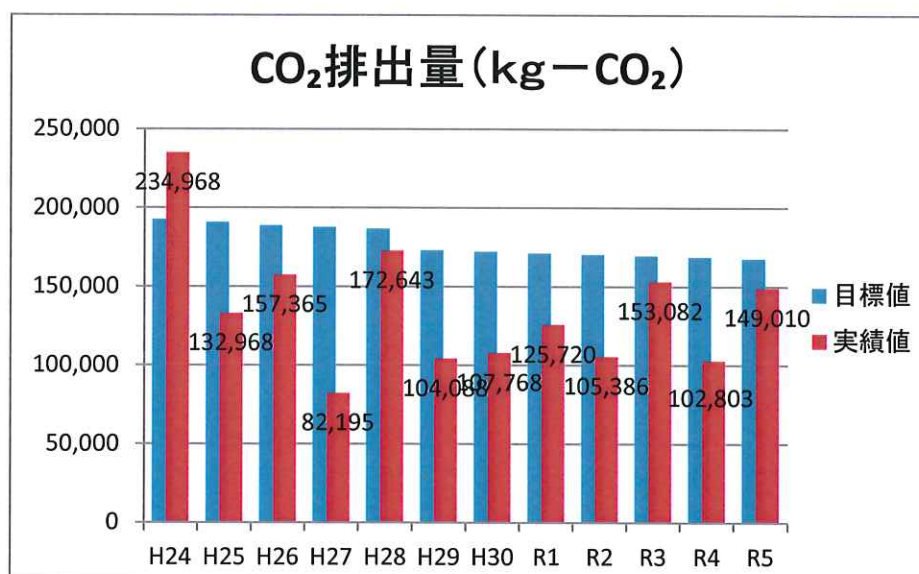
① CO₂排出量の削減

CO₂排出量の割合



H24年度には軽油割合が70%近くあったが、省エネ機械や工法、工種などによっても使用量が減少していると感じる。
ガソリンの使用量は軽トラック等の車両増もあり増えてきている。
全体での使用量は削減できているので、このまま現状の取組を継続していきたい。

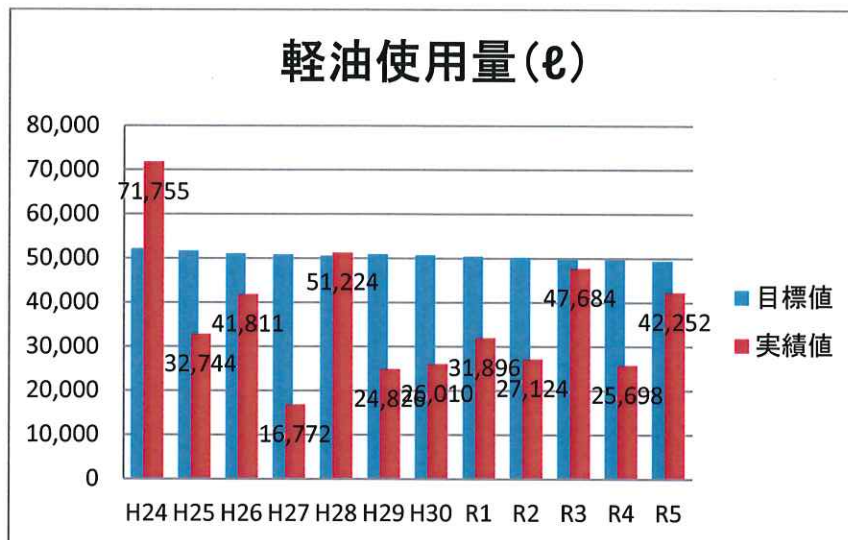
CO₂排出量の比較



H24年度の実施当初から経年比較すると、変動はあるものの目標を達成している。
目標設定においても売上変動に配慮しながら、H29年度に基準年をH28年の値へ変更した。
継続の節約に対する意識が実績となってきている。

② 軽油使用量の削減

軽油使用量の比較



H24年度の実施当初から経年比較すると、変動はあるものの目標を達成している。目標設定においても軽油がCO₂削減の最重要項目であるため、使用量に比例する売上変動に配慮しながら、H29年度に基準年をH28年の値へ変更した。使用機械のハイブリッド化に積極的に取り組み、節約に対する意識が実績となってきている。自社保有の機械や車両の減も要因と思われる。現状の取組を継続していきたい。

環境にやさしい エコドライブのすすめ

- 1 ふんわりアクセル（やさしい発進を心掛けましょう）
- 2 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- 3 高速時は早めにアクセルを離そう
- 4 エアコンの使用は適切に
- 5 ムダなアイドリングはやめよう
- 6 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- 7 タイヤの空気圧から始める点検・整備
- 8 不要な荷物はおろそう
- 9 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- 10 自分の燃費を把握しよう

* 自分の車だと思って大切に。



栗山工業株式会社
E&E・環境エコ事業所掲示用ポスター



エコアクション21
認証・登録番号 0009202



ECO IBARAKI
登録区分・番号 AA 313

環境活動に取り組んでいます！！



“次世代に引き継がれる最高のものづくりを創出していく”

栗山工業株式会社

茨城県稲敷郡美浦村布佐1049

TEL 029-885-0477

現場の掲示板に貼り、下請協力会社の方とも共有。



[取組内容]

- ・省エネモード運転
- ・エンジン回転数抑制
- ・エンジン回転数抑制
- ・アイドリングストップ
- ・機械や車両の定期点検
- ・エコドライブの掲示
- ・下請会社との連携

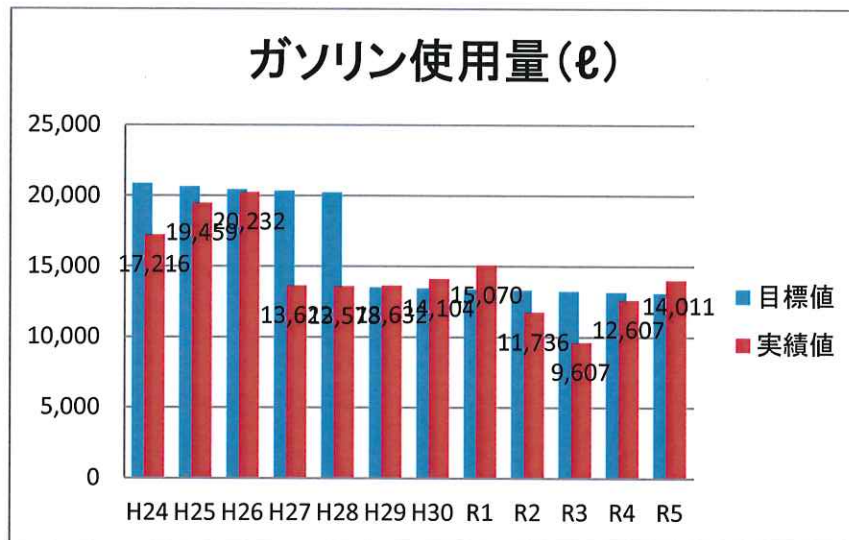
ひとりひとりの意識を高めるため、保有車両に掲示。

8 働きがいも
経済成長も



③ ガソリン使用量の削減

ガソリン使用量の比較



H24年度の実施当初から経年比較すると、ハイブリッド車への入れ替えもあり、使用量が削減されている。今年度は軽トラック増量、社員増加のためガソリンの使用量が増えている。
現状の取組を継続していきたい。

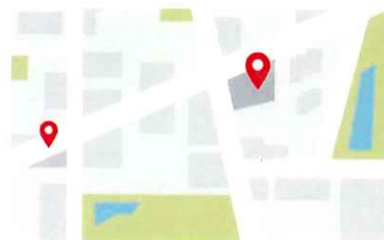
環境にやさしい エコドライブのすすめ

- 1 ふんわりアクセル（やさしい発進を心掛けましょう）
- 2 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- 3 高速時は早めにアクセルを離そう
- 4 エアコンの使用は適切に
- 5 ムダなアイドリングはやめよう
- 6 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- 7 タイヤの空気圧から始める点検・整備
- 8 不要な荷物はおろそう
- 9 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- 10 自分の燃費を把握しよう

＊ 自分の車だと思って大切に。



栗山工業株式会社
E&I・環境エコ事業所掲示用ポスター



適正なルートを選定。



[取組内容]

- ・アイドリングストップ
- ・現場への相乗り推進
- ・定期的な点検・整備
- ・適正なルートの選定
- ・エコドライブの掲示

ひとりひとりの意識を高めるため、保有車両に掲示。

使用頻度などもチェックし、定期的に車両の入れ替えを検討。

8 働きがいも
経済成長も

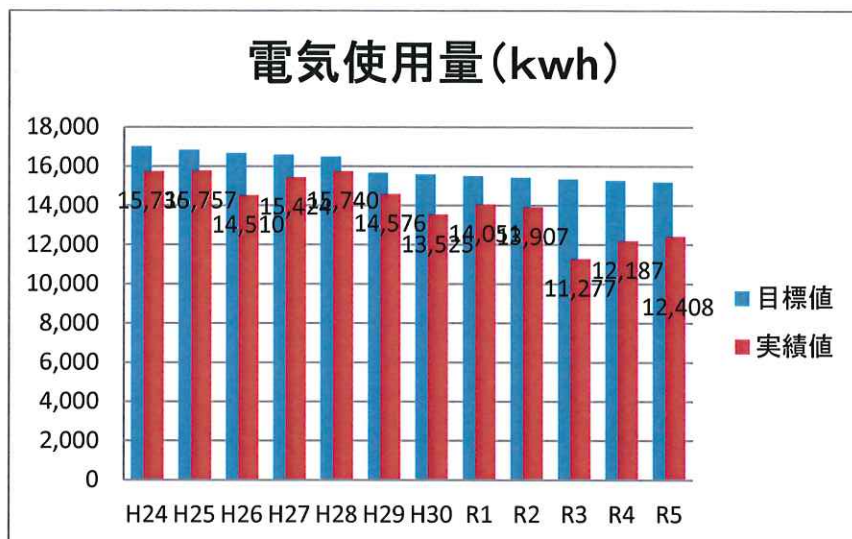




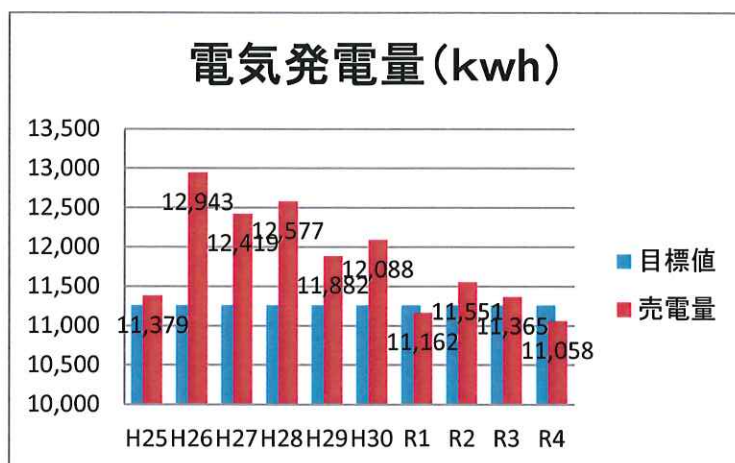
④ 電気使用量の削減



電気使用量の比較



H24年度の実施当初から経年比較すると、「こまめに消す」「エアコンの温度設定管理」などの意識改革により使用量が減少している。
 設備としては、H25には屋根へソーラーパネルの設置（売電）、H29には社内の蛍光灯を全てLED照明に入替をするなど積極的に電力使用減に向けて取り組んできた。
 今年度、初めて使用量が発電量を下回った。7月8月12月2月は使用量が増えることから、冷暖房が大きく影響していると思われ、引き続き重点的に対策をしていく。



[取組内容]

- ・使用していない照明をこまめに消す
- ・照明はLEDを使用する
- ・冷暖房時にはブラインドを使用する
- ・設備品の購入は省エネタイプにする
- ・コンセントタップをこまめに抜く
- ・エアコン室外機を日光から遮熱する
- ・コンセントタップをこまめに抜く

H25に設置したソーラーでは当初メーカーの予想を超える発電量となっているが、R5年においては11,636kw hを発電できた。



事務所の様子（LED照明）

7

エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

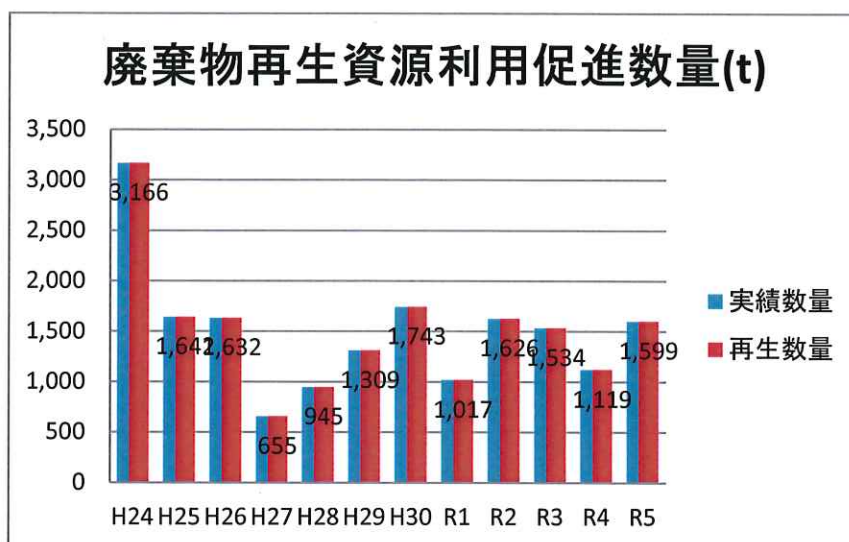




⑤ 公共工事における 建設廃棄物再生資源促進率の維持

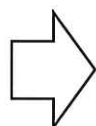


建設工事における建設廃棄物再生資源利用促進率



H24年度の実施当初から経年比較すると、工事実績や工種等により数量は変動している。日頃からマニフェストの適正管理により、細かく分別し処理施設への持込を実施している。

カ会社とともに廃棄物の適正管理に取り組んでいきたい。

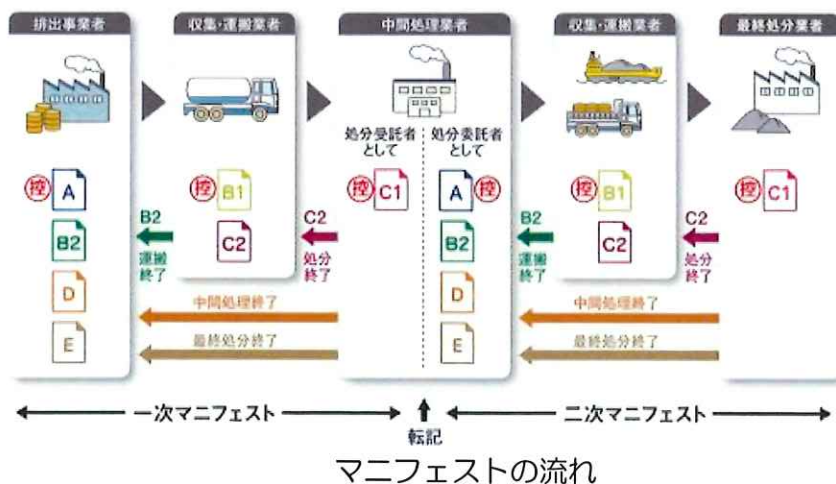


年度分を
毎年6/30までに

[取組内容]

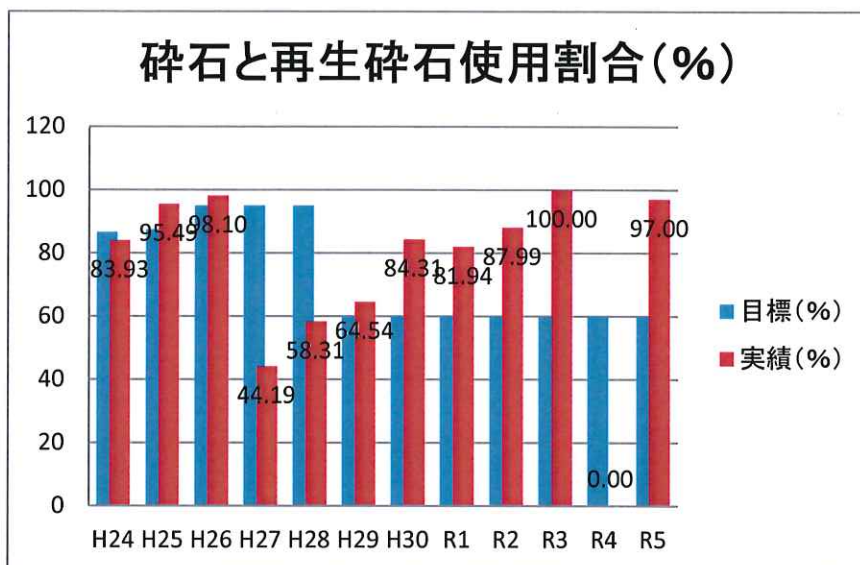
- ・分別を徹底する
- ・資源の効率的使用する
- ・廃棄物に関して協会社への教育をする
- ・現場事務所にも取組の掲示をする

マニフェスト（現場ごとに廃棄物処分施設へ作成し持込）



⑥ 材料指定外工事における再生資源利用率の向上

材料指定外工事における再生資源利用率



工事の内容などによりH24年度の実施当初から経年比較が難しいが、今年度民間工事において再生材使用率は100%となり、今年度目標である60%維持を大幅に達成した。実際に使用した量からの傾向把握に努め、民間の工事においては今後とも可能な限りの再生材提案を行っていきたい。

廃材が
再生されるまで



再生砕石（関連会社㈱美浦クリーン製造）

[取組内容]

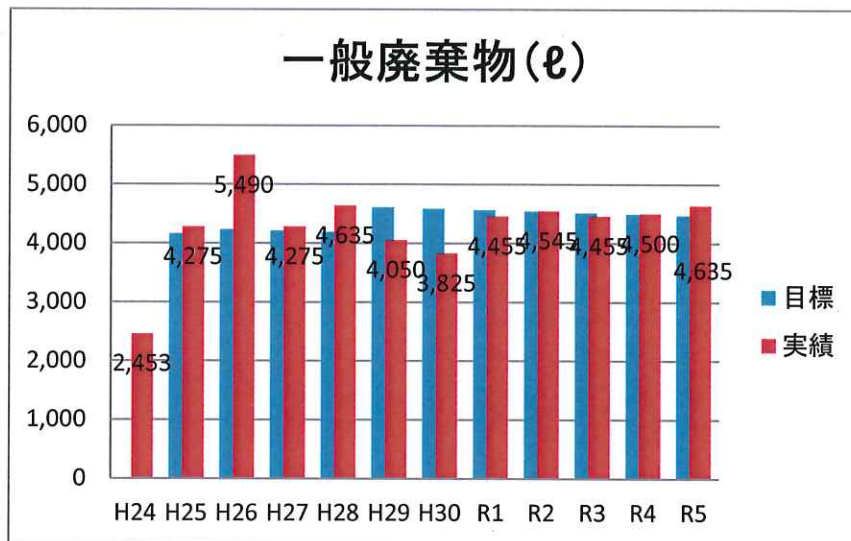
- ・再生材利用の提案。推進をする
- ・使用割合や傾向把握に努める

8 働きがいも
経済成長も



⑦ 一般廃棄物の削減

一般廃棄物の削減



H24年度は未把握だったが、実施当初から経年比較すると概ね4000～4500ℓとなっている。

一般廃の内訳としては、コピー用紙、シュレッダー、カレンダーなど紙屑が中心となってくるので、引き続き廃棄物を減らしたうえで、分別を細分化して最小限にしていきたい。また文書整理の際の紙くずをどう削減していくかが課題としていく。



[取組内容]

- ・再生可能な廃棄物の分別をする
ダンボール、ペットボトル、キャップ
缶、瓶、インクカートリッジ等
- ・コピー用紙の裏面、両面印刷の推進

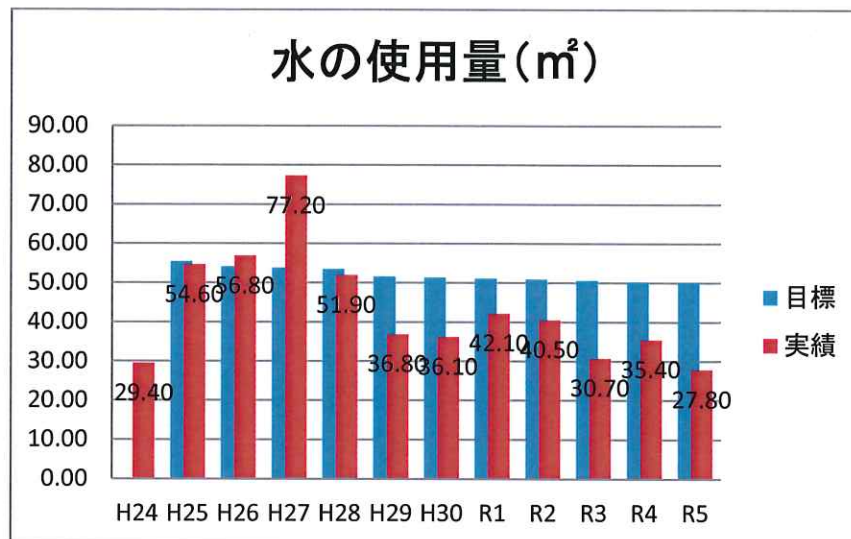


12 つくる責任
つかう責任



⑧ 水使用量の削減

水使用量の削減



H24年度の実施当初は使用量未把握であったが、以後経年比較すると40m³以下となっている。
 例年同様削減努力を継続しており、引き続き削減を心掛ける。



- [取組内容]**
- ・節水の周知
 - ・水を流しっぱなしにしない





⑨工事のICT化の取組内容と結果



ICTの取組内容

- | | | |
|-------------|----------------------|------|
| 1. R5.4.26 | ICTセミナー（測機社）参加 | （2名） |
| 2. R5.5.24 | 建設・測量生産性向上展（幕張メッセ）参加 | （2名） |
| 3. R5.6.15 | 他社視察・意見交換（常総市） | （3名） |
| 4. R5.7.24 | 他社視察・意見交換（つくば市） | （3名） |
| 5. R5.8.23 | 建設コンサルタント協会ICTセミナー参加 | （1名） |
| 6. R5.9.22 | 外部アドバイザーとの打合せ | （3名） |
| 7. R5.10.3 | ICT測量・広報用動画撮影 | （3名） |
| 8. R5.11.16 | 外部アドバイザーとの打合せ | （3名） |
| 9. R5.12.1 | ICTセミナー（全国建設青年会議）参加 | （1名） |
| 10. R6.1.12 | ICT施工・広報用動画撮影 | （3名） |
| 11. R6.2.21 | 建機レンタル事業者とのヒアリング | （3名） |

上記のとおり様々なセミナーや講習会に参加し、知識を習得した。
工事を担当する従業員全員のスキルアップを目指し、現場の状況を見ながら取り組んでいく

5. 環境関連法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

並びに違反、訴訟等の有無



(1) 適用されるおもな環境法令等の遵守状況の確認及び評価の結果

以下の法令について、環境管理責任者により令和6年3月11日各要求事項が実施され、かつ問題ないことを確認した。

《廃棄物処理》廃棄物処理に関する法律 - 産業廃棄物処理施設の視察調査、委託契約 - 廃棄物運搬処理業者との委託契約 - マニフェストの発行と期日管理 - 管理表の交付状況報告 - 多量排出事業者は産業廃棄物処理計画を提出
《廃棄物処理》水銀使用製品産業廃棄物に関する法律 水銀使用製品廃棄物の有無を確認
家電リサイクル法 TV・エアコン・洗濯機・冷蔵庫の回収有無を確認
リサイクル法 - 建設廃棄物処理に関する書類の提出（該当工事） - 再生資源の利用に関する書類の提出（該当工事）
建設リサイクル法 工事完工の7日前までに説明書を提出
建設業法 - 建設業許可の更新 - 年度終了を4カ月以内に変更届を提出
《水質》浄化槽法 汚水点検・定期検査の実施
《大気》オフロード法 公道を使用しない特殊自動車の対象施設を確認
《大気》排ガス対策型建設機械普及促進規定 施工時重量に使用機械を記載する
《大気》フロン排出抑制法 - 解体工事での事前確認を実施 - 事務所エアコンの簡易点検（3カ月に1回）
《大気》その他 建築物の解体時における事前調査（一定規模以上2週間前まで）
騒音規制法 杭打機、削岩機、空圧圧搾機等を使用する際の届出確認
振動規制法 杭打機、削岩機、ブレーカー等を使用する際の届出確認
高圧ガス保安法 ガスカスの消費有無、取扱いの確認
建築基準法 - 石棉含有建材の使用禁止確認 - クロロビリス添加建材の使用禁止確認 - ホルムアルデヒドに関する規制の確認
労働安全衛生法 - 衛生衛生措置等の設置 - 全従業員の健康診断実施（年1回）

(2) 違反、訴訟等

令和5年度において、環境関連の違反、訴訟等はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

6. 地域貢献活動



クリーンアップ活動



環境活動への自主的な取り組みとして、毎月4日会社周辺の清掃活動を恒例行事とし実施しています。木々の多い地域のため、以前から不法投棄が多くみられましたが、活動をおこなってからは少しずつ減ってきているように感じます。地域の方々にも気持ちよく感じていただけるよう今後も続けていきたいです。



使用済み切手の寄付



美浦村社会福祉協議会へ寄付することで運営の一部になっています。この寄付の他、募金も行っています。



ペットボトルキャップの寄付



ボトルキャップをごみとして焼却しないことで地球温暖化の原因となる二酸化炭素を削減できます。集められたキャップは再生素材としていろいろな製品に生まれ変わり循環型社会を実現しています。またキャップの異物除去、分別の仕事を障がい者、高齢者に行ってもらい雇用創出・自立支援に繋がっています。

3 すべての人に
健康と福祉を





7. 代表者による全体の評価と見直しの結果

今年度の環境目標について初めて目標を概ね達成することが出来た。

主要項目の軽油・ガソリン、電気の使用量は削減化出来ていることは評価できる。工事の請負形式で重機・機器の使用頻度が異なってくるので原因を分析しながら、引き続き今の状態を維持していけるよう注視して参りたい。

建設業界においてもデジタル化が進んできた。工事の施工管理技術の進歩もみられるが、まだまだ完全移行ではなく人の手が多くかかっている。今後も新たなアプローチで環境活動にも配慮した新しい組織の運営方法を模索していく所存である。

これからも地域社会や時代に求められる企業づくりをエコアクション21と共に進めて参りたい。



栗山工業株式会社
代表取締役社長 栗山秀樹